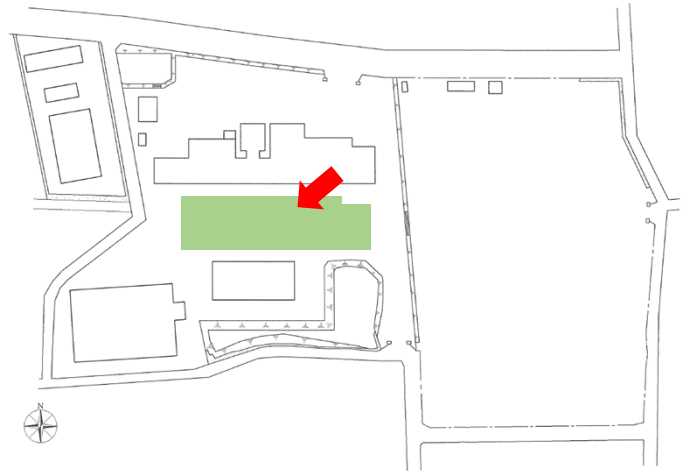


吉岡町立明治小学校での芝生化の取組について

1. 概要

- ・校庭中庭の約1100㎡を芝生化
- ・芝生化には、成長が早く、損傷してもすぐに回復する西洋芝「ティフトン」のポット苗を使用
- ・維持管理の負担低減のため、自動芝刈機と埋没式スプリンクラーを導入



2. 実際のスケジュール

	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
芝植え	事前準備			○														
芝植え				★														
維持管理				スプリンクラー整備			～10月中旬まで朝夕2回、～11月中旬まで朝1回、以降は状況を見て散水を止める											
維持管理							～9月中旬まで月2回程度、以降は月1回程度の頻度											
維持管理							自動芝刈り機が毎日夕方の7時～朝の4時まで稼働											
芝生の利用開始							養生期間は設けず、苗植え後から出入りを自由に行っている											

3. 事前準備（7月中旬）

- ・業者によりスプリンクラーと自動芝刈り機のガイドラインを設置した。
- ・芝植え作業に向けて、町教委4名でポット苗を等間隔に植えるためのライン引きとスプレーによる穴掘り位置のポイント付けを行った。
- ・ライン引きには、トンボにボルトを設置した専用の治具を使用した。
- ・その後、ラインのクロスする約4,400カ所にスプレーで芝植えの目印をした。



やってみてわかったこと

- ・地面が固く、うまく線を引くことができなかったが、あくまでも目印ということで割り切った施工を行った。結果的には問題なかった。
- ・ラインが消えてしまう可能性があったため、目印でスプレーでポイントを打ったが、これも思ったより大変な作業であった。

4. 芝植え作業（7月中旬）

- ・ 1㎡あたり4株、計4,400株の苗を植えた。
- ・ 児童が参加する前に地元自治会と地域住民（保護者）で穴開けを行った。
- ・ その後、5年生と6年生が入れ替わりでそれぞれ1時限分、芝植えを行った。
- ・ 児童と一緒に地域住民（保護者）・町教委・地元自治会も芝植えを行った。



やってみてわかったこと

- ・ 当日は小雨のぱらつく天気となり、雨雲の動きを見ながらの施工となった。
- ・ また、苗が予定の時間に届かないというトラブルもあったが、学校側で柔軟に対応いただき施工することができた。
- ・ 最初大人たちで穴を掘り始めた際には、想像以上に地面がかたく、一日では終わらないと全員が思ったが、いざ始まってみると児童はどんどん植えていって、あっという間に予定の株数を植えることができた。児童のパワフルさに驚かされる結果となった。
- ・ 施工時期が夏休み直前で熱中症を懸念しながらの日程であった。良くも悪くも小雨のぱらつく天気であったため高温とはならなかったが、施工時期とするともう少し早い時期での苗植えが望まれる。
- ・ 掘り起こすと小石も出てきたため、最後にみんなで石拾いを行った。

5. 維持管理（散水）

- ・芝植え前の7月に埋没式スプリンクラー5基の設置工事を行った。
- ・稼働時間制御タイマー付き雨量感知センサー機能により、降雨時を除いて毎日一定時間自動で散水される。
- ・10月中旬までは毎日朝夕2回に分けて20分間タイマーで散水を行った。
- ・11月中旬までは毎日朝1回。以降は、発育状況を見て散水を止める予定。



やってみてわかったこと

- ・自動散水機能により散水の手間は軽減されている。
- ・しかし、散水する位置によっては十分ではない部分もあり、そこについては苗が根付くまでは人力による散水でカバーした。

6. 維持管理（施肥）

- ・手押し式散布機に肥料を入れて散布。
- ・7月中旬から9月中旬までは月2回程度、それ以降は月一回程度の頻度で行った。
- ・肥料は、鳥取方式を参考にN P K成分15-15-15を選定した。



やってみてわかったこと

- ・約1,100㎡の芝生で、1名で作業すると約15分で終了する。
- ・現在は町教委で行っているが、今後は県教育センターのハートフルサポートステーションのスタッフに委託する予定。

7. 維持管理（芝刈り）

- ・自動芝刈り機が、毎日夕方7時から翌朝4時まで稼働している。



やってみてわかったこと

- ・当初、自動芝刈り機の不具合により稼働しない時期があり、雑草が生い茂る時期でもあったため、その間は町教委の方で人力による芝刈りを行った。
- ・現在は稼働しているが、来年どの程度雑草に対しても有効かどうかは検証の必要がある。
- ・雑草の勢いによっては人力と併用しながら活用していきたい。

8. 芝生の利用

- ・養生期間は設けず、苗植え後から出入りを自由に行っている。
- ・植える時期が遅かったため生えそろうたのは9月下旬ごろになったが、夏の猛暑も落ち着いたころになると児童が休み時間などで追いかけてっこをする姿を見ることができる。





やってみてわかったこと

- ・ティフトン苗は踏圧に強いいため、芝植えの当日から校庭の利用は可能としていたが、数週間後から夏季休暇となり児童の出入りは少なかった。
- ・夏季休暇後も猛暑の影響で屋外での活動が制限され、結果的には十分な養生期間を設けることができた。
- ・主に今回の対象地が低学年が使用する校庭なので、元気に走り回ったり、座っている光景をみると植えてよかったなと思う。
- ・苗を植える際の校長先生の言葉にあったが「これから始まる新しい事業でこれを皆さんが植えたんだと誇れる校庭にしていきたいと思います」というフレーズが印象的であった。

9. 明治小学校の声

明治小の中庭は、南校舎と北校舎に挟まれた1000平方メートルあまりのスペースで、主に学校園や低学年の遊び場として利用されていました。低学年の児童が遊んだり、理科の観察をしたりするには丁度良いスペースではあったものの、水はけが悪く、プールや池の改修工事などにより石やガラが露出し、土も堅く締まっていたと転ぶと怪我をしやすいなど、使い勝手があまり良くありませんでした。また、夏になると草が膝丈ほどに伸び、草刈りの手間も大変でした。

しかし今回の芝生化により、中庭のスペースが一面の緑となり、児童が安心して遊んだり学習に取り組んだりすることができる居心地のよい環境に生まれ変わりました。心配されていた維持・管理の面ですが、芝刈りは自動芝刈り機の導入により、毎日短く芝が刈りそろえられ余分な草も生えません。また、地面に設置されたスプリンクラーにより自動的に散水が行われ、今年のような酷暑でも芝が青々と育ちました。どちらも自動で行われるため教職員に手間が一切かからず、長期休業中でも安心して芝の管理ができました。

芝生化において重要なのは、芝の植栽作業よりもむしろ、学校側の維持・管理ともいえます。もちろん完全なメンテナンスフリーとはいきませんが、それでも自動芝刈り機やスプリンクラーの導入により、芝の維持・管理が格段に軽減されていることは本事業の一番の利点であり、学校にとって導入しやすい取組でした。

明治小学校の子ども達が、芝生の上で、先生や友達と遊んだり学習をしたりして楽しそうに過ごす姿を見ると、「芝生化をやってよかったな。」と、感じます。明治小学校教職員一同、そして子ども達たちからも、関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。